

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年(2020年)3月24日
市立札幌開成中等教育学校

1 本年度の重点目標

課題探究的な学習に向き合う環境を整える

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	10の学習者像を意識した日常的な取組に努め、MYP/DP校の実現を目指し取り組むことができたか。	B	MYP/DP校として、授業づくりを中心にIBの手法を取り入れた教育活動を実施しているが、生徒に対して意識的に学習者像に触れることや、教職員も含め全員が目指す姿であることを強調していく必要がある。今後も学校教育の様々な場面で学習者像に結びつけるよう取り組んでいきたい。	A	A
	SGHとSSHへの取組を通して、編入生の教育課程の充実を図ることができたか。	A	SSHは2期3年目を迎え、更に充実したカリキュラム開発・プログラムの企画と実施がなされている。日本国内外の教育機関との連携が充実し、参加生徒にとっては貴重な経験であり刺激となっている。また、昨年度終了したSGHは、SDGsの目標を掲げた探究活動となりSSH同様に深い学びとなっている。	A	A
	重点目標の内容は、学校や生徒の実態を踏まえた適切な設定となっているか。	A	編入生・新入生の教育課程、そして、5年次がDPとIPの教育課程で学ぶ初年度であった。学校が掲げるSELFの理念とIBの手法をベースにすることで、課題探究的な学習に向き合う環境が整った。	A	A
学校関係者評価委員による意見	適切に評価できている。開成中等教育学校におけるSELFの理念を中心に据え、IBの教育プログラムの確実な実施とともに、海外留学の機会を活用するなど、グローバルな人材の育成へ向けた取組をより一層推進していただくよう期待する。				
教育課程・学習指導	【課題探究】「なぜ、どうして」を大切にしたい、生徒自身が学びの主人公となる「課題探究的な学習」を充実することができたか。	A	5年次よりDP/IPがスタートし、MYPに引き続き課題探究的な学習の取組を進めている。新学習指導要領で示されている主体的・対話的で深い学びの実現に向け、評価方法や授業改善に努めた。	A	A
	【専門性】理数英の専門学科の特色を生かした教育課程を編成することができたか。	A	SSHの学びの集大成であるコズモサイエンスでの課題研究に向けて、実験・実証の方法や英語でのプレゼンテーションなど、必要な知識やスキルを身に付けることのできる教育課程の編成に努めた。	A	A
	【バランス】知徳体のバランスがとれた教育課程となっているか。	A	引き続き、道徳・総合的な学習(探究)の時間・特別活動の横断的カリキュラムである「ところからだの時間」を効果的に設定するとともに、自らの健康維持や体力向上に生徒が主体的に取り組む工夫に努めた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	課題探究的な学習に対して、生徒の評価が高いことは大きな成果と考える。また、生徒の発達段階に応じて知徳体のバランスがとれた教育を日常的に実施していることも評価できる。また、今年度は1年～6年で取り組んだ試行錯誤発表会は新しい試みとして成果があったので、今後もこのような相互理解を高め、学びを深める機会を工夫して設定していただくよう期待する。				
生徒指導・教育相談	【育てたい生徒像】生徒がTPOに応じたふさわしい対応ができるように支援することができたか。	A	Student Handbookには最低限のルールのみが記載されている。学校生活のあらゆる場面を捉え、全教職員が関わりながら、TPOに応じた対応やマナーの大切さについて伝えてきた。引き続き、支援の在り方や方策についての研修を続け、各期の成長段階を踏まえた望ましい生徒の姿について、教職員間で共通認識を図れるように努める。	A	A
	【異年齢交流】学校行事や生徒会活動を通して幅広い異年齢の交流をはかり、生徒の自主性や協調性を育むことができたか。	A	学校行事や生徒会活動のねらいをより明確にし、生徒と教職員が共通認識を持って、本校の特色を生かした異年齢交流を行ってきた。また、学校教育目標の理念のもと、生徒が主体的に活動する環境づくりを今後も続けていく。	A	A
	【教育相談】教育相談の充実を図ることができたか。	A	教育相談月間やカモンウィーク(新設)を実施し、相談・支援の充実を図った。今後も生徒や保護者が相談しやすい体制づくりに努め、全教職員がカウンセリングマインドを持ち、相談にあたることを続けていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	学校行事やボランティア活動など、生徒の社会的な自立を促進するための教育プログラムの設定や、困りを抱える生徒に対するきめ細かな支援を図る体制が整備されている。仲間同士でサポートし合う意識は高いことがアンケートの結果から見取ることができるので、教師やスクールカウンセラーへの相談等についても状況に応じて活用できることを期待するが、生徒同士の関係が構築していると、教師を頼る意識は下がるので、設問に工夫が必要である。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
(キャリア探究教育)	【主体的な取組】生徒が自らの生き方を主体的に考え将来を切り拓く力を養うことができるよう、進路探究の充実を図ることができたか。	A	引き続き、主体的な進路選択を目的としたフューチャーセッションやコズモプロジェクトを中心とした進路探究的な学習に取り組む。	A	A
	【自己理解】体験活動を通して自分を知り、自立を目指すことができるような取組ができたか。	A	自己肯定感や自己効力感の向上につながるよう体験活動の振り返りと自己評価の機会を設けた。また、4・5年次では「学びみらいPASS」を活用し、1年間の振り返りシートを作成した。	A	A
	【社会とのつながり】変化の激しい変わりゆく社会で自らどういう役割が果たせるかを生徒自身が意識できるような取組ができたか。	A	ボランティア的な活動に日常的に取り組む雰囲気醸成に努めるとともに、SA(サービス アズ アクション)の実践を通して、意識の向上を図った。	A	A
学校関係者評価委員による意見	キャリア教育の推進は、生徒の自己実現につながるものであり、学校が体験活動、職場体験、ボランティア活動を重視していることは高い教育効果につながっている。今後も学校内外で地域や社会とのつながりを大切にしながら多様な取組を推進していただきたい。				
保健・安全管理	【見守り体制】生徒の安全・安心・快適さを維持する環境を整えることができたか。	A	教職員間の連絡調整を密に行い、きめ細やかな見守り体制を構築した。生徒相互で安全・安心な環境を作り上げ、快適な環境を維持する意識を高めた。緊急時の対応について、十分な理解と協力が図れるように全教職員、全生徒への周知に努めている。	A	A
学校関係者評価委員による意見	これからも安全・安心、快適な学校生活を送るための環境整備等に取り組んでいただきたい。また、学校全体で生徒を見守る意識で取り組んでいるカモンウィークは評価できる。今後も学校の安全体制の整備を積極的に実施していただきたい。				
組織運営	全教職員が連携し、分掌業務を円滑に推進できたか。	B	大幅な組織の見直しと、各分掌の業務を再構築することで、多様な業務をスリム化し、これまで以上に円滑に進めることができるよう努める必要がある。	A	A
学校関係者評価委員による意見	組織体制を見直し、業務の再構築をととして、生徒への教育効果が高まることを期待する。また、同時に、働き方改革の視点からも、業務精選の積極的な推進を図るよう期待する。業務の精選には時間を要するが、確実に推進していただきたい。				
研修	生徒・保護者・教職員が課題探究的な学習を行うための環境整備を推進することができたか。	A	実践交流を中心に研究・研修に努めるとともに、メディアセンターをはじめとした探究環境の整備に努めた。	A	A
	研修等で得たIBプログラムやSSH等の情報を保護者・教職員間で共有することができたか。	B	校外のIBワークショップ等における研修結果を全教職員が共有できるようにした。また、校内研修の充実や各教科の指導計画の共有、SSHの活動報告など、取り組むべき内容は明確だが、時間的な制約が多く、研修時間帯の確保等枠組みを見直す必要がある。	A	A
学校関係者評価委員による意見	研修会のリーダーを育成する取組は評価できる。今後も課題探究的な学習を支える教師のファシリテーターとしての技術の向上に期待する。				
保護携者・情報地域提等との連携	入学を考えている児童・生徒に対し、必要な情報を適宜発信することができたか。	A	今年度実施した第1回の学校説明会(7月)は、学校祭と併催だったため学校全体が慌ただしい状況となったが、6年生限定だった昨年度までとは違い、低学年の児童・保護者に学校を公開したことは評価できる。第2回(9月)は例年通り授業公開を行った。	A	A
	学校だよりや学年だより、ホームページ、学年懇談会などを通して、学校の様子がよく分かるように伝えているか。	A	今年度は、ホームページの充実を軸に取り組んでおり、保護者からは一定の評価をいただいた。学校公開は年間10回の授業公開日、学年・学級懇談会を企画し様子を公開した。今後はIBコーディネーターやSSH委員会と連携し、さらに内容の充実を図っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	懇談会などの行事によって、学校に足を運ぶ機会がたくさん設定されていることは、保護者の安心感の高揚や地域の方の学校への理解を高める効果につながっている。また、昨年度反省点になっていたホームページのタイムリーな更新については、大幅な改善が見られ、大変評価できるところである。教職員の方々の負担もあるので、バランスよく取り組んでいただくよう期待するところである。				
教育環境の整備	タブレット端末や他のICT機器は、課題探究的な学習を行う上で効果的に活用されているか。	A	タブレット端末をはじめとしたICT機器を安定して活用できる環境が整備され、生徒が発表する場面等において効果的に活用できた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	タブレットPCについては、学校のすべての教育活動で効果的な活用が図られている。基礎期の使用に関わっては、セキュリティーポリシーの指導を徹底し、適切な使用を指導していただきたい。また、効果的な活用方法については、先駆的な学校であることから、他校への発信もできると考える。				